

愛知教育大学 2015 年度卒業論文概要

観光学習を取り入れた小学校社会科の授業実践の成果と課題

岩井 志歩

本研究の目的は、小学生を対象に、社会科、特に地理教育において観光を取り入れることで、空間認識力や旅先を紹介する力、学習意欲の向上ができるか否かを、授業実践を通して検証することである。研究方法として、授業前のアンケート調査、社会科での授業実践、授業後のアンケート調査を江南市立門弟山小学校で実施した。授業実践については、小学 4 年生の都道府県の学習の単元の中で、愛知県の観光プランを作成する授業を 3 時間行う。

その結果、以下のことが明らかになった。授業実践前は、愛知県の観光地を自分たちの住む地域に近いものや遠足で行ったことがあるものの程度の認識だった児童が多く、またその観光地がある市町村の位置の認識も高くない状況があった。また、旅先を紹介することに関しては自分の経験を述べる状態で、児童が旅先を紹介する対象者は見えなかった。しかし実践を通して、児童たちがグループごとで工夫して愛知県の観光マップを作る様子がみられ、オリジナリティー溢れる観光マップを作ることができた。また、アンケートを通じた実践前後の変化として、自分たちの住む地域から離れた場所にある愛知県の観光地を認識するようになった児童が多くみられ、観光地のある市町村を愛知県の白地図上で示せるようになった児童も多くいた。また、旅先を誰かに紹介しようとする姿勢も児童に養うことができた。

以上のことから、愛知県の観光マップを作るという活動をするすることで、愛知県の市町村に関する空間認識力は向上し、また、観光の提案者としての立場が子どもたちの中に芽生え、旅先を紹介する力も向上し、もっと愛知県のいろいろな場所に行ってみたい、知りたいという学習意欲の向上にもつながるということがわかった。しかし一方で、小学校での観光を取り入れた社会科の授業の学習時間数や教材・教具の工夫及びそれに伴う学習学年設定、旅先を紹介する力を確実に定着させる方法に課題が残っている。